

(別記様式)

外部研修実施機関届出書

2021年4月16日

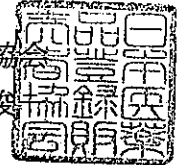
兵庫県知事 井戸 敏三 殿

住 所 〒105-0001

東京都港区虎ノ門1-15-10 名和ビル5階501号

氏 名 一般社団法人日本医薬品登録販売者協

会長 樋口 俊



「登録販売者の資質の向上のための外部研修に関するガイドライン」(平成24年3月26日付け薬食総発0326第1号)に基づき、実施する外部研修の概要を下記のとおり届け出ます。

記

外部研修 実施機関	氏名・名称	一般社団法人日本医薬品登録販売者協会
	所在地	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-10 名和ビル5階501号
研修実施 責任者	氏名	樋口 俊一
	電話番号	045-470-6640
研修実績	一般社団法人日本医薬品登録販売者協会の登録販売者の研修実績は次の通りである。 1) 研修実績 ○平成22年以降、登録販売者資質向上継続研修を実施(別紙、平成31年度前期・後期実績参照) 2) 研修形式 ○集合研修 ・登録販売者資質向上研修〔集合〕 ○通信研修(eラーニングまたは郵送通信) ・登録販売者資質向上研修〔通信〕	
研修の専門性・客観性・公正性の確保の方法	研修の企画・運営は、教育、学術等関係者、消費者等から構成される登録販売者資質向上研修企画有識者会議(以下「研修企画有識者会議」という)で検討し、その検討結果内容に基づき、登録販売者資質向上研修教材専門家会議(以下「研修教材専門家会議」という)で教材を作成し、研修実施体制の専門性、客観性、公平性等を図っている。【登録販売者資質向上研修企画有識者会議委員一覧参照】	



研修実施方法、実績等の情報の公開の方法	一般社団法人日本医薬品登録販売者協会のホームページですべて公開する。	
研修の形式	1回6時間の集合研修を2回(計12時間)、または1回6時間の集合研修+6時間分の通信研修(eラーニングまたは郵送通信)。 集合研修、通信研修は、それぞれ一定条件の下に受講終了が確認された場合にのみ受講証明証が発行される。12時間以上の受講が確認できた場合のみ修了証が発行される。 【「受講証明証」「修了証」の見本は「実施要領」参照】	
研修の内容	集合研修 12時間(年間) 遠隔・通信講座 6時間(年間) (遠隔・通信の実施方法は実施要領参照)	
研修の実施頻度	実施要領参照	
研修の修了認定の方法	実施要領参照	
研修実施情報の記録・保存の方法	集合研修または通信研修の受講者の受講履歴並びに受講内容等の記録は、日本医薬品登録販売者協会本部で6年間、保存・管理する。行政・企業・個人の求めに応じて証明証を発行する。また研修後の実施状況等については、当該自治体からの文書による報告の指示があった場合にのみ、受講者名を含めて、個人情報保護法に基づき報告するものとする。	
研修に関する 問い合わせ先	部署名	一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会
	電話番号	045-470-6640(横浜事務処理センター)
	電子メールアドレス	info-n@nittokyo.jp
ホームページアドレス	http://www.nittokyo.jp/	
備考		

※添付書類確認欄

(インターネットにより一般に閲覧が可能なホームページアドレス)

外部研修実施要領	https://www.nittokyo.jp/kensyu/concept.html
カリキュラム	http://www.nittokyo.jp/kensyu/schedule.html

**2021 年度
登録販売者資質向上研修
実施要領**

2021 年 4 月

主催

一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会

登録販売者資質向上研修 実施要領

1. 目的

一般社団法人日本医薬品登録販売者協会（以下「日登協」という。）は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律を遵守するとともに、「薬局並びに店舗販売業及び配置販売業の業務を行う体制を定める省令」（以下「新体制省令」という。）に基づき発出された厚生労働省医薬食品局総務課長通知「登録販売者に対する研修の実施について」に示された「登録販売者の資質の向上のための外部研修に関するガイドライン」（以下「外部研修ガイドライン」という。）に対応した外部研修を、毎年、適正に実施するために「登録販売者資質向上研修実施要領」を定める。

2. 企画・運営

研修の企画・運営は、教育、学術等関係者、消費者等から構成される登録販売者資質向上研修企画有識者会議（以下「研修企画有識者会議」という。）で検討し、登録販売者資質向上研修教材専門家会議（以下「研修教材専門家会議」という。）で教材を作成することにより、研修実施体制の専門性、客観性、公平性等を図っている。研修企画有識者会議と研修教材専門家会議の概要及び委員は次の通り。

1) 研修企画有識者会議と委員

日登協は外部研修ガイドラインに基づき、研修の実施体制の客観性を十分に確保するため、研修の企画・運営については、教育、学術等関係者、消費者等の参画を求めて、研修企画有識者会議を年2回以上開催している。同有識者会議の委員は次の通りである。

有馬 純雄（一般社団法人 日本置き薬協会 代表理事）

石橋 直子（消費生活アドバイザー）

岩月 進（公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事）

川島光太郎（一般社団法人 日本薬業研修センター 名誉理事）

笹谷 則之（一般社団法人 日本薬局協励会 副会長）

佐藤 聖（一般財団法人 日本ヘルスケア協会 常務理事）

内藤 隆（一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 副会長）

中込 和哉（一般社団法人 日本薬業研修センター 理事長）

樋口 俊一（一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 会長）

福田 千晶（医学博士・健康科学アドバイザー）

堀 美智子（医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー）

増山ゆかり（全国薬害被害者団体連絡協議会）

(50音順)

2) 登録販売者資質向上研修教材専門家会議と執筆担当

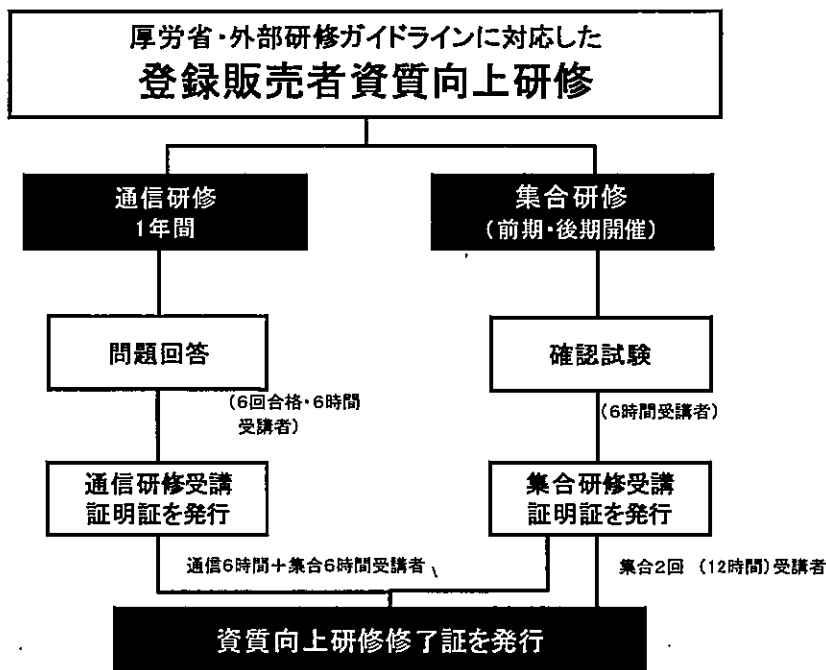
登録販売者資質向上研修の集合研修、通信研修のテキストを作成する。同専門家会議の委員および執筆担当者は次の通り。

浅井 香奈枝 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
荒木 文明 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
伊藤 崇裕 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
岡田 めぐみ (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
川島 光太郎 (一般社団法人 日本薬業研修センター 名誉理事)
久保田 純平 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
黒田 裕美子 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
小徳 めぐみ (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
筑波 純 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
豊田 正孝 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
内藤 隆 (一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 副会長)
中込 和哉 (一般社団法人 日本薬業研修センター 理事長)
野本 実 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
原 建 (一般社団法人 日本薬局協励会)
堀 美智子 (医薬情報研究所 (株) エス・アイ・シー)
松田 佳和 (日本薬科大学 教授)
三上 彰貴子 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
宮本 俊男 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
百瀬 晴彦 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
山岡 法子 (帝京大学 薬学部 准教授)
山下 夏樹 (一般社団法人 日本薬局協励会)
六丸 友理 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)

(50音順)

3. 研修の実施形式

日登協の資質向上の研修形式は「集合研修」と「通信研修」がある。1年間に1回6時間の「集合研修」を2回、または1回6時間の「集合研修」と6時間の通信研修を受講したことを証明された受講者に、当該年の資質向上研修の修了証を発行する。



〔資質向上研修〕

- A: 集合研修1日(6時間)+通信研修(6回・6時間)、計12時間
- B: 集合研修2日(前期(6時間)・後期(6時間)1日ずつ)、計12時間

AまたはBの受講者に、資質向上研修の修了証を発行

※2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、2020年7月13日(月)に厚生労働省より出された『新型コロナウイルス感染症への対応を踏まえた登録販売者に対する研修及び既存配置販売業者の配置員の資質の向上に関する講習、研修等の実施方法について』の事務連絡に基づき、登録販売者資質向上集合研修は臨時的・特例的にライブ動画やオンデマンド動画を活用した通信研修(臨時的通信研修)で実施しました。2021年度につきましても同様の観点から、少なくとも前期期間中の集合研修開催は難しいと考えられ、前年度と同じように臨時的・特例的な通信研修(臨時的通信研修)に代替できないか、厚生労働省と協議しています。

4. 資質向上研修の内容

資質向上研修の「集合研修」と「通信研修」の内容は次の通りである。

1) 集合研修内容とカリキュラム

(1) 集合研修の狙い

外部研修ガイドラインに基づき、消費者や薬害被害者等の意見を反映し、集合研修でなければ習得しにくい実践的な内容を盛り込み、日進月歩の一般用医薬品を取り巻く状況を継続的に習得し、医薬品の適正使用の推進につなげる。

(2) 集合研修カリキュラム

集合研修のカリキュラムは外部研修ガイドラインを満たす基礎編と応用編で構成され、継続的に最新情報と適正な情報提供、相談応需に役立つ内容を提供している。

①基礎編

i. 医薬品に共通する特性と基本的な知識

医薬品の本質や有効性、安全性について、さらに薬学の歴史や医薬品の持つ副作用、危険性など。

ii. 人体の働きと医薬品

身体の構造と働き、薬の働く仕組み、副作用の症状など。

iii. 主な一般用医薬品とその作用

主な一般用医薬品とその作用を知り、購入者等への情報提供や相談対応に活用できる最新情報など。

iv. 薬事に関する法規と制度

薬事関係法規を遵守する大切さと、一般用医薬品の販売に関する法令・制度の仕組みに関する最新情報。

v. 一般用医薬品の適正使用と安全対策

医薬品の添付文書、製品表示等を読み込み、情報提供や相談応需に活用できる最新情報と、副作用等の報告義務、継続的に行う役割、副作用被害救済制度を活用できる情報。

vi. リスク区分等の変更があった医薬品

一般用医薬品のリスク区分、添付文書等の変更内容の提供と、それに合わせて、それらの情報が専門家として常に収集しなければならない最新情報。

vii. その他登録販売者として求められる理念、倫理、関連法規等

セルフメディケーションの支援者として、登録販売者に求められる社会的な使命や役割、理念、倫理、関連法規等についての継続的な知識を持つ。

②応用編

i. 関連法規

健康政策、健康食品、化粧品、介護用品など、セルフメディケーション支援者として必要な関連法規。

ii. 地域業務情報

都道府県等の業務行政と協力、連携し、可能な限り勤務区域の業務情報等について講義を受け、医薬品販売の専門家として法の順守と行政等との協力意識を高める。

iii. 医薬品および医薬品関連情報の注意点

行政から出された通知等の他、国民生活センター、関係学会、関係団体などから発出された医薬品や医薬品関連情報のなかで、特に販売時に注意が必要だと思われる最新情報、または購入者等への注意喚起事項。

iv. 薬剤師、医師への勧奨時のポイント

適正な薬剤師への取り次ぎ、医師の受診勧奨を行うための心構えとそのポイント。

v. 勤務店舗の医薬品情報体制、医薬品管理

医薬品のリスク別陳列、情報提供、相談応需、掲示など、特に勤務する店舗の管理者として知っておかなければならない販売制度に関する事項。

vi. その他、登録販売者の業務遂行のために求められる知識

日進月歩のセルフチェックケア、スキンケア、オーラルケア、アイケア、フットケア等の各用品、介護用品など、ドラッグストアで幅広く扱われているヘルスケア用品についての正しい使い方、さらにセルフメディケーション推進の支援の仕方などに関する最新情報。

(3) 集合研修用テキスト執筆陣（2021年度前期用テキスト）

監修者 有馬 純雄（一般社団法人 日本置き薬協会 代表理事）
石橋 直子（消費生活アドバイザー）
岩月 進（公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事）
川島光太郎（一般社団法人 日本薬業研修センター 名誉理事）
笹谷 則之（一般社団法人 日本薬局協励会 副会長）
佐藤 聖（一般財団法人 日本ヘルスケア協会 常務理事）
内藤 隆（一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 副会長）
中込 和哉（一般社団法人 日本薬業研修センター 理事長）
樋口 俊一（一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 会長）
福田 千晶（医学博士・健康科学アドバイザー）
堀 美智子（医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー）
増山ゆかり（全国薬害被害者団体連絡協議会）

(50音順)

執筆者 浅井 香奈枝（一般社団法人 日本薬業研修センター 講師）
荒木 文明（一般社団法人 日本薬業研修センター 講師）
伊藤 崇裕（一般社団法人 日本薬業研修センター 講師）
岡田 めぐみ（一般社団法人 日本薬業研修センター 講師）
川島 光太郎（一般社団法人 日本薬業研修センター 名誉理事）

久保田 純平 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
黒田 裕美子 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
小徳 めぐみ (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
筑波 純 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
豊田 正孝 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
内藤 隆 (一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 副会長)
中込 和哉 (一般社団法人 日本薬業研修センター 理事長)
野本 実 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
原 建 (一般社団法人 日本薬局協励会)
堀 美智子 (医薬情報研究所 (株) エス・アイ・シー)
松田 佳和 (日本薬科大学 教授)
三上 彰貴子 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
宮本 俊男 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
百瀬 晴彦 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)
山岡 法子 (帝京大学 薬学部 准教授)
山下 夏樹 (一般社団法人 日本薬局協励会)
六丸 友理 (一般社団法人 日本薬業研修センター 講師)

(50 音順)

(4) 集合研修カリキュラム

2021年度(前期)の集合研修、前期カリキュラムは次の通りである。

①集合研修カリキュラム

■2021年度 集合研修(前期)

時間	講座	概要	ガイドライン
60分	第1 薬事行政 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・要指導医薬品とリスク区分の変更があった医薬品について ・医薬品医療機器等法の一部改正について ・新型コロナウイルス感染症の研究用抗原検査キットに係る留意事項について ・「使用上の注意」の改訂について 	⑥ ④ ④ ⑤
60分	第2 医薬品販売業に 係る法規と制度	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度医薬品販売制度実態把握調査結果について ・薬事法施行規則第15条の2の規定に基づき濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品(告示)の施行について ・予防接種法及び検疫法の一部を改正する法律について ・セルフメディケーション税制について ・食品表示制度の完全施行について 	⑦ ⑤ ④ ④ ④
昼食休憩(30分)			
60分	第3 (前半) 登録販売者 のための 技術・知識①	テーマ:免疫関係 1. 免疫とは何か 2. PCR検査、抗体検査、抗原検査 3. ワクチンの種類について 4. 新型コロナウイルスワクチンについて、他	① ② ② ②③
休憩(10分)			
80分	第3 (後半) 登録販売者 のための 技術・知識①	テーマ:ステイホームの問題点 1. ゲートキーパーとしての登録販売者の役割 2. ステイホームと栄養、運動について 3. 目薬の使い分け、他 4. ケーススタディ(20分)	⑤⑦ ⑦ ③ ①②③
休憩(10分)			
80分	第4 登録販売者 のための 技術・知識②	テーマ:漢方薬 1. ステイホームのストレスと漢方薬 2. 医療用医薬品と一般用医薬品の漢方薬の違い 3. 漢方薬に関する注意事項、他 4. ケーススタディ(20分)	②③ ②③ ②③ ①②③
20分	第5 確認試験	筆記による確認試験と問題解説	

※研修時間計 360分(6時間)(休憩時間を除く)

※ガイドラインの番号は、外部研修ガイドラインの外部研修内容に該当する研修内容。

※研修のために必要なテキストを用意し、確認試験を行う。

[ガイドラインが求める7項目]

- ① 医薬品に共通する特性と基本的な知識
- ② 人体の働きと医薬品
- ③ 主な一般用医薬品とその作用
- ④ 薬事に関する法規と制度
- ⑤ 一般用医薬品の適正使用と安全対策
- ⑥ リスク区分等の変更があった医薬品
- ⑦ その他登録販売者として求められる理念、倫理、関連法規

②受講対象者

集合研修の受講対象は、全ての登録販売者とする。

2) 通信研修内容（eラーニング）とカリキュラム

（1）通信研修の狙い

外部研修ガイドラインに基づく外部研修である。詳細なテキストを用意し、繰り返し見直すことができる。確認試験はスマートフォン、携帯電話でも可能である。そのためにいつでも、どこでも、好きな時間に、継続的に学習できるシステムを構築している。集合研修にないメリットとして、テキストを何度も繰り返し確認することにより、セルフメディケーション支援の専門家として、より正確な情報提供、相談対応につなげることを目的としている。

（2）通信研修内容

通信研修用テキストは会員のみ提供されるもので、厚労省・外部研修ガイドラインに対応し、店頭でよく聞かれる事項を、それぞれ症状、部位別に分類しています。

【2021年度カリキュラム】

1. 鎮咳去痰薬（前半）
2. 鎮咳去痰薬（後半）
3. 禁煙補助剤（前半）
4. 禁煙補助剤（後半）
5. 外用消炎鎮痛薬（前半）
6. 外用消炎鎮痛薬（後半）

■学習方法

通信研修 郵送受講の教材は、6回分（6時間分）をまとめて送付いたします。テーマごとに、病理・薬理・対処法や主な薬効を学習し、情報提供のために必要なポイントを学習します。はじめにテキストを読んで、内容を十分に理解してから問題に取りかかって下さい。

■回答と提出について

問題の回答と提出方法は次の通りとなります。

1) 問題回答について

問題数は50問となります。

同封されているマークシートに回答をマーキングして下さい。

複数のマークシートが送付されますので、回答時に使用するマークシートにご注意ください。

2) 提出について

マークシートに回答をご記入し、封筒に切手を貼って次の宛先まで投函して下さい。
封筒は各自でご用意下さい。

提出は随時受け付けておりますが、外部研修ガイドラインに対応した研修を修了するには、学習期間中に6回分を合格して頂く必要があります。

【マークシート提出先】

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-5-10 楓第二ビル 4階 一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 横浜事務処理センター

3) 採点結果について

毎月月末に採点を行い、採点結果を翌月10日以降に送付いたします。

郵送での通信研修は40点以上で合格となります。

合格基準に満たなかった場合は、追試として課題レポートが出題されます。

(3) 通信研修用テキストの執筆陣

①「症状・部位別医薬品通信研修」の研修内容

監修者 : 中込 和哉 (一般社団法人 日本薬業研修センター 理事長)
堀 美智子 (医薬情報研究所 (株) エス・アイ・シー)
内藤 隆 (一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 副会長)

編集・執筆者 : 中込 和哉 (一般社団法人 日本薬業研修センター 理事長)
堀 美智子 (医薬情報研究所 (株) エス・アイ・シー)
筑波 純 (一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 認定講師)

＜イメージ＞

登録販売者用

**「症状・部位別」ネットセミナー
2021年度登録販売者実質向上研修
第1回 鎮痛去痰薬(前半)**

(注) Q&Aで疑問を解消

今までに学んで来た、多くの知識、それらが自分の知識として身につけていない、忘れていたこと、ある程度のことばかり、ここで一度、確認してみよう、疑問ももたせても、質問はしっかりと質問を返して下さい。

次の問題文について、正しいもの・適切なものは○、誤っているもの・不適切なものは×として答えなさい。

番号	問題文	正誤	解説
1	喘息発作や気管支炎発作時の鎮痛剤の使用は、その副作用が呼吸器系に及ぶため、原則として禁忌である。	×	喘息発作や気管支炎発作時の鎮痛剤の使用は、その副作用が呼吸器系に及ぶため、原則として禁忌である。
2	鎮痛剤は、頭痛や発熱に効果的であるが、副作用として嘔吐を引き起こすことがある。	○	鎮痛剤は、頭痛や発熱に効果的であるが、副作用として嘔吐を引き起こすことがある。
3	鎮痛剤は、呼吸器系に作用するが、その副作用として、呼吸器系に作用する可能性がある。	×	鎮痛剤は、呼吸器系に作用するが、その副作用として、呼吸器系に作用する可能性がある。
4	鎮痛剤は、呼吸器系に作用するが、その副作用として、呼吸器系に作用する可能性がある。	○	鎮痛剤は、呼吸器系に作用するが、その副作用として、呼吸器系に作用する可能性がある。

一般社団法人 日本製薬研修センター

2021年度登録販売者実質向上研修
第1回 鎮痛去痰薬(前半)問題(0000)

(1) 鎮痛剤に関する内容で、誤りなものを「ア」、誤っていないもの・不適切なものを「カ」として、その番号を解答欄にマークして下さい。

1. 呼吸器系に作用する。
2. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
3. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
4. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
5. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
6. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
7. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
8. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
9. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
10. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
11. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
12. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
13. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
14. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
15. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
16. コデイン鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。

(2) 「病・機」について適切なものを「ア」、誤っていないもの・不適切なものを「カ」として、その番号を解答欄にマークして下さい。

17. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
18. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
19. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
20. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
21. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
22. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
23. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。
24. 鎮痛剤は、呼吸器系に作用する。

テキスト：テーマにより 10～70 頁ほど

確認試験：1 テーマ 50～100 問

ポータルサイト「セルメプラザ」から通信研修ネットセミナーを開くことができる。それぞれテキストと問題の一覧を開き、1から順に進めていく。

3) 登録販売者研修の時間数

(1) 集合研修

集合研修は1回6時間。次のスケジュールで実施される。

前期・後期の内容が変わるため、前期・後期両方受講することで12時間となる。

時間	講義内容(所要時間)
10:00	① 薬事行政情報 (60分)
11:00	② 医薬品販売業に係る法規と制度 (60分)
12:00	(昼食) (30分)
12:30	④ 登録販売者のための技術・知識① (60分)
13:30	(休憩) (10分)
13:40	⑤ 登録販売者のための技術・知識① (約80分)
15:00	(休憩) (10分)
15:10	⑥ 登録販売者のための技術・知識② (約80分)
16:30	第5講座 確認テスト (20分)

※一部、会場により時間変更の場合がある。

(2) 通信研修

①通信研修の時間数

「症状・部位別医薬品通信研修」の1テーマ1時間とし、年間6テーマ（6時間）修了する。学習方法は各テーマ順にテキストで学習し、確認試験（50～100問）を行う。通信研修は「eラーニング」と「郵送通信」の方法がある。

②通信研修の確認方法

・eラーニングの場合

1テーマごとにテキストによる学習（1テーマ：10～70頁）の後、確認試験（1回50～100問）を全問正答するまで行う。全問正答しないと次テーマに進めないシステムになっている。このシステムに基づき、6テーマ（50～100問×6回＝300問～600問）全問正答した者を、通信研修6時間の終了者とみなして、通信研修受講証明証を交付する。

・郵送通信の場合

インターネット環境にないなどの理由により、書面によるテキスト等で研修を希望する者を対象とする。内容はeラーニングと同様、1テーマごとにテキスト学習（1テーマのテキスト：10～70頁）後、確認試験（1回50～100問）をマークシートにて回答し、日登協本部に送付、日登協事務局での採点により、80%以上の正答率で合格とする。80%未満の場合は、指定した内容のレポートを日登協本部に提出し、内容審議の上、合格が確認できれば、次のテーマに進むことが出来る。同様にして6テーマ（50～100問×6回＝300問～600問）について確認試験の正答率各80%以上を満たした者、または80%未満の場合はレポート提出で内容審議の上、合格した者を、通信研修6時間終了と見なして、通信研修受講証明証を発行する。

③通信研修の受講履歴の管理

通信研修の受講者に受講履歴の発行および受講履歴を要望に応じ発行

5. 集合研修の講師

日本医薬品登録販売者協会の講師は、開催する研修内容に関する専門的な技術・知識を有するもので、一般社団法人日本薬業研修センターに登録された次の3種類の講師により、全国の登録販売者の資質向上研修を実施する。

1) 講師と助手

(1) 専門講師

一般社団法人日本薬業研修センターに所属し、薬学・医学・法律などの専門領域で大学教授、または大学教授と同等の知識及び経験を有し、実施する研修に関する専門的な技術・知識を有する者。

(2) 特別講師

行政官または行政経験者、薬害被害者（または薬害被害者団体から選出された者）、消費者代表など、医薬品の安全・安心、適正使用等、さらに医薬品を使用する立場から高い見識を有する者。

(3) 認定講師

ドラッグストア等で3年以上の実務経験を有し、一定条件を満たし、実施する研修に関する専門的な技術・知識を有する薬剤師。なお、認定講師は毎年、前期、後期ごとに確認試験を受け、70%以上の正答率を得られた薬剤師に限定する。

2) 講師の講義範囲

講師の講義範囲は次の通り。

専門講師	個別のテーマ、または講師マニュアルに基づき、それぞれの専門分野で講義の進行・解説ができる講師。
特別講師	
認定講師	講師マニュアルに基づき、講義の進行・解説ができる講師。

認定講師は「認定講師用マニュアル」に基づき講義するため、専門講師と同じ内容で、一定レベルの統一的な講義を可能にする。

6. 修了証明証の発行条件

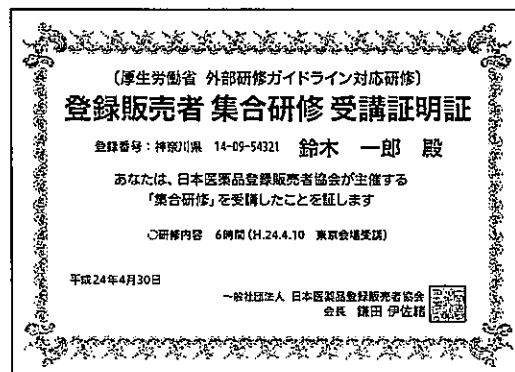
1) 外部研修ガイドラインに基づく修了認定と修了証明証の発行条件

外部研修ガイドラインに基づき集合研修、通信研修は、それぞれ修了にあたり、確認試験を行う。特に通信研修では不正な確認試験が行われないよう厳格な運用システムを設け、確実に6時間以上の通信研修を実施したかを判断した上で、受講証明証と修了証を発行する。

(1) 集合研修受講証明証

前期および後期に開催される集合研修を受講した者に集合研修受講証明証を発行する。

〔集合研修受講証明証（サイズA6）〕



(2) 通信研修受講証明証

「症状・部位別医薬品通信研修」を1年以内に6回（6時間）合格した者に発行する。

〔通信研修受講証明証（サイズA6）〕

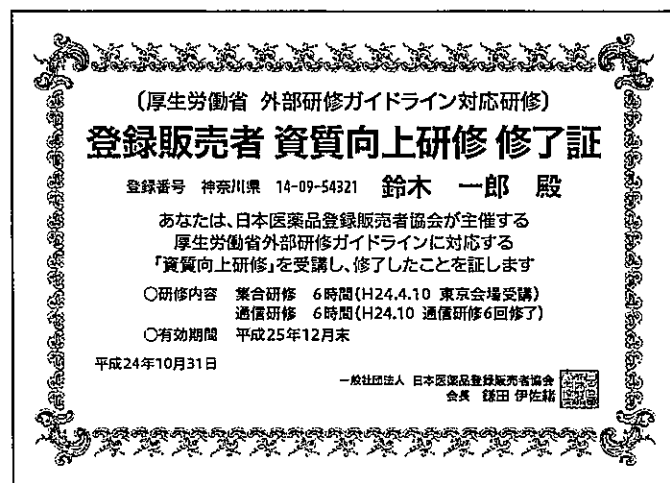


(3) 資質向上研修修了証

次のいずれかの受講者に、資質向上研修修了証を発行する。

- A. 集合研修2日（前期・後期1日ずつ、計12時間）の受講者
- B. 集合研修1日（6時間）＋通信研修6回（6時間）受講者

〔資質向上研修修了証（サイズA5）〕



(5) 研修認定および修了証の保存と証明

研修の受講及び修了記録は、日本医薬品登録販売者協会が保管し、各個人、企業の要望により受講履歴を発行する。また行政の要求に対し、活用することが出来る。

①受講及び修了履歴の管理

- ・集合研修の受講、通信研修の受講、資質向上研修の修了記録は、日本医薬品登録販売者協会が6年間保管する。

②受講及び修了リストの作成と発行

- ・企業一括申込みの場合、企業の要望により、受講及び修了者リストを発行する（無料）

7. 研修受講者の記録・保存と行政への報告

集合研修または通信研修の受講者の受講履歴並びに受講内容等の記録は、日本医薬品登録販売者協会本部で6年間、保存・管理する。企業・個人の求めに応じて証明書を発行する。

※地方自治体に研修概要の事前届出と実施状況の事後報告

本研修内容については、日本医薬品登録販売者協会本部にて、事前に研修概要、実施要領を都道府県に届出るものとする。また研修後の参加者リスト、修了者リスト等の実施状況については、当該都道府県の店舗に従事者ごとに報告する（個人情報保護法に基づき報告する）。

8. 透明性の確保

外部研修の実施方法や研修開催日程、費用などの必要な情報は全て日本医薬品登録販売者協会ホームページ（<http://www.nittokyo.jp/>）にて公表する。

9. 外部研修の受講費

厚労省の外部研修ガイドラインに基づく外部研修受講費は次の通りとする（修了認定料、修了証発行、受講記録、保存管理料等、研修に関わる全ての費用を含む）。

会員区分	参加区分	費用
A会員 ^{※1} (年会費2,400円)	企業企画 ^{※3}	無料
	オープン ^{※4}	1,000円
B会員・非会員 ^{※2}	企業企画 ^{※3}	1,200円
	オープン ^{※4}	2,200円

※1:A会員の方は、通信研修(eラーニング無料または郵送通信1,850円)が受講できます。

※2:B会員および非会員の方は、通信研修は受講できません。

※3:登録団体・企業の企画研修に、研修を企画した団体・企業に所属する登録販売者参加の場合

※4:日登協企画研修、登録団体・企業企画研修にオープン募集参加の場合

10. 外部研修申込み方法

日本医薬品登録販売者協会専用ホームページ(<http://www.nittokyo.jp/>)、または事務局(045-470-6640(横浜事務処理センター))に連絡し、開催日程等を確認の上、所定の用紙に必要な事項を入力または記入後に、返信またはファックス等で申込むものとする。

11. その他

本実施要領は必要に応じて改訂する。

2021年度 集合研修（前期）カリキュラム

時間	講座	概要	ガイドライン
60分	第1 薬事行政 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・要指導医薬品とリスク区分の変更のあった医薬品について ・医薬品医療機器等法の一部改正について ・新型コロナウイルス感染症の研究用抗原検査キットに係る留意事項について ・「使用上の注意」の改訂について 	⑥ ④ ④ ⑤
60分	第2 医薬品販売業に 係る法規と制度	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度医薬品販売制度実態把握調査結果について ・薬事法施行規則第15条の2の規定に基づき濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品(告示)の施行について ・予防接種法及び検疫法の一部を改正する法律について ・セルフメディケーション税制について ・食品表示制度の完全施行について 	⑦ ⑤ ④ ④ ④
昼食休憩(30分)			
60分	第3 (前半) 登録販売者 のための 技術・知識①	テーマ:免疫関係 1. 免疫とは何か 2. PCR検査、抗体検査、抗原検査 3. ワクチンの種類について 4. 新型コロナウイルスワクチンについて、他	① ② ② ②③
休憩(10分)			
80分	第3 (後半) 登録販売者 のための 技術・知識①	テーマ:ステイホームの問題点 1. ゲートキーパーとしての登録販売者の役割 2. ステイホームと栄養、運動について 3. 目薬の使い分け、他 4. ケーススタディ(20分)	⑤⑦ ⑦ ③ ①②③
休憩(10分)			
80分	第4 登録販売者 のための 技術・知識②	テーマ:漢方薬 1. ステイホームのストレスと漢方薬 2. 医療用医薬品と一般用医薬品の漢方薬の違い 3. 漢方薬に関する注意事項、他 4. ケーススタディ(20分)	②③ ②③ ②③ ①②③
20分	第5 確認試験	筆記による確認試験と問題解説	

※研修時間計 360分（6時間）（休憩時間を除く）

※ガイドラインの番号は、外部研修ガイドラインの外部研修内容に該当する研修内容。

※研修のために必要なテキストを用意し、確認試験を行う。

〔ガイドラインが求める7項目〕

- ① 医薬品に共通する特性と基本的な知識
- ② 人体の働きと医薬品
- ③ 主な一般用医薬品とその作用
- ④ 薬事に関する法規と制度
- ⑤ 一般用医薬品の適正使用と安全対策
- ⑥ リスク区分等の変更があった医薬品
- ⑦ その他登録販売者として求められる理念、倫理、関連法規

※通信研修については実施要領、7～8頁を参照下さい。

登録販売者資質向上研修企画有識者会議 委員一覧

教育、学術等関係者、消費者等の参画について

本研修は実施体制の客観性を十分に確保するために、教育、学術関係者、消費者等の参画を求め、年２回、定期的に登録販売者資質向上研修企画有識者会議を開いています。

同会議では、研修終了時に行っている受講者への研修運営、研修内容等に関する感想、クレーム、次回研修したい内容等のアンケート調査を行い、その調査結果を元に検証し、「登録販売者に対する研修の実施について」（平成 24 年 3 月 26 日付薬食総発 0326 第 1 号）で示している「登録販売者の資質の向上のための外部研修に関するガイドライン」の範囲内で次回研修内容の作成等にフィードバックしています。同会議の氏名、所属、略歴等は次の通りです。

川島 光太郎（一般社団法人 日本薬業研修センター 名誉理事）

- 1965（昭和 40）年 3 月 東京大学薬学部卒業
- 1970（昭和 45）年 3 月 学位取得、東京大学薬学部で教務職員、助手として勤務
- 1978（昭和 53）年 4 月 帝京大学薬学部で助教授、教授として勤務
- 2006（平成 18）年 3 月 同大学を定年退職
- 2007（平成 19）年 9 月 一般社団法人 日本薬業研修センター理事長就任

中込 和哉（一般社団法人日本薬業研修センター 理事長）

- 1975（昭和 50）年 3 月 東京大学薬学部卒業
- 1977（昭和 52）年 3 月 東京大学大学院薬学研究科修士課程修了
- 1977（昭和 52）年 4 月 通商産業省工業技術院微生物工業技術研究所に入所
- 1990（平成 2）年 4 月 東京大学大学院より薬学博士授与
- 1991（平成 3）年 9 月 米国ラフォヤ癌研究所研究員
- 1995（平成 7）年 4 月 富山医科薬科大学薬学部助教授
- 2002（平成 14）年 4 月 帝京大学薬学部教授
- 2018（平成 30）年 3 月 帝京大学を定年退職
- 2018（平成 30）年 7 月 一般社団法人日本薬業研修センター理事長就任

堀 美智子（一般社団法人 日本薬業研修センター 医薬研究所 所長）

- 1976（昭和 51）年 3 月 名城大学薬学部卒業、翌年 3 月同薬学専攻科修了
- 1977（昭和 52）年 4 月 名城大学薬学部医薬情報室勤務
- 1980（昭和 55）年 2 月 帝京大学薬学部医薬情報室勤務
- 1996（平成 8）年 4 月 名城大学薬学部非常勤講師
- 1998（平成 10）年 2 月 医薬情報研究所(株)エス・アイ・シー設立に参加

2007（平成19）年9月 一般社団法人 日本薬業研修センター医薬研究所 所長就任

樋口 俊一（一般社団法人 日本医薬品 登録販売者協会 会長）

1974（昭和49）年 北里大学薬学部卒業
1974（昭和49）年 薬剤師国家試験合格薬剤師
1974（昭和49）年 ヒグチ産業株式会社入社
1990（平成2）年 ヒグチ産業株式会社社長就任
1993（平成5）年 東京都議会議員
1994（平成6）年 大阪大学から薬学博士号を授与
1999（平成11）年 日本チェーンドラッグストア協会副会長就任 現在に至る
2004（平成16）年 参議院議員
2009（平成21）年 衆議院議員
2010（平成22）年 ヒグチ産業株式会社社会長就任 現在に至る
2013（平成25）年 日本医薬品登録販売者協会会長就任 現在に至る

内藤 隆（一般社団法人 日本医薬品 登録販売者協会 副会長）

1978（昭和53）年3月 龍谷大学経営学部経営学科卒業
1978（昭和53）年4月 （株）小田島 盛岡店病院課病院係配属
1982（昭和57）年4月 盛岡店病院課病院係長
1984（昭和59）年8月 内藤薬店開店準備のため退職
1984（昭和59）年9月 内藤薬店 開店
2009（平成21）年 日本医薬品登録販売者協会岩手県支部 岩手県医薬品登録販売者協会会長
2009（平成21）年 北日本医療福祉専門学校 薬業科医薬品管理学非常勤講師
2015（平成27）年 一般社団法人 日本医薬品登録販売者協会 副会長

佐藤 聖（一般財団法人 日本ヘルスケア協会 理事）

慶應義塾大学文学部、同大学院修士課程修了

1974（昭和49）年 （財）流通システム開発センター入所。DIY・ホームセンター、コンビニエンスストア、宅配ビジネス、ロードサイドショップ、ドラッグストア、家電量販店など、一貫して新業態論を研究。併せて日米流通構造協議問題等に関わる商慣行改善調査、流通外資の日本進出実態調査、商業統計体系に関する調査等に携わった。

1993（平成5）年3月まで 産業技術審議会専門委員

2006（平成18）年9月まで 統計審議会専門委員

2015（平成27）年11月 一般財団法人日本ヘルスケア協会常務理事

増山 ゆかり（全国薬害被害者団体連絡協議会）

- 1963 (昭和 38) 年 北海道生まれ。サリドマイド薬禍の被害者
- 2002 (平成 14) 年 5 月～2006 (平成 18) 年 5 月 厚生科学審議会医薬品販売制度改正検討部会委員
- 2007 (平成 19) 年 2 月～2007 (平成 19) 年 6 月 登録販売者試験実施ガイドライン作成検討会委員
- 2008 (平成 20) 年 2 月～2008 (平成 20) 年 7 月 医薬品の販売等に係る体制及び環境整備に関する検討会委員
- 2008 (平成 20) 年 8 月～2008 (平成 20) 年 9 月 サリドマイド被害の再発防止のための安全管理に関する検討会委員
- 2009 (平成 21) 年 2 月～2009 (平成 21) 年 6 月 医薬品新販売制度の円滑施行に関する検討会委員
- 2010 (平成 22) 年 10 月～2011 (平成 23) 年 6 月 独立行政法人医薬品医療機器総合機構運営評議会委員
- 2012 (平成 22) 年 10 月～ 独立行政法人医薬品医療機器総合機構審査・安全業務委員会

石橋 直子 (消費生活アドバイザー)

- 1974 (昭和 49) 年 3 月 日本女子大学家政学部卒
- 1988 (昭和 63) 年 4 月 製品輸入促進協会輸入品情報室に消費生活アドバイザーとして勤務
- 1989 (平成 1 年) 年 11 月 介護のため退職
- 1996 (平成 8 年) 年 10 月 論文「母にも使いやすい携帯電話機を探して」で商品科学研究所 商品研究大賞受賞
- 1998 (平成 10) 年 5 月 フリーランスの消費生活アドバイザーのためのプランナーズネットワーク VIVACE 設立
- 以後フリーランスとして、消費者・企業・行政を繋ぐ様々な活動をしている

福田 千晶 (医学博士・健康科学アドバイザー)

- 1988 (昭和 63) 年 慶應義塾大学医学部卒業、医師国家試験合格 医師として東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学科勤務
- 1995 (平成 7) 年 学位 (医学博士) 取得
- 1996 (平成 8) 年 東京慈恵会医科大学退職
- 以後、フリーランスの健康科学アドバイザーとして全国各地での講演および執筆を主体に活動。
- 所属学会: 日本リハビリテーション医学会、日本東洋医学会、日本体力医学会、日本産業衛生学会、日本人間ドック学会

笹谷 則之（一般社団法人 日本薬局協励会 常任理事）

1981（昭和56）年3月 明治薬科大学製薬学科卒業
1981（昭和56）年4月 台糖ファイザー（株）入社
1981（昭和56）年10月 薬剤師免許取得
1984（昭和59）年3月 台糖ファイザー（株）退社
1984（昭和59）年4月 ササヤ薬局入社
1989（平成元）年 （有）ササヤ薬局取締役就任
2000（平成12）年 （有）ササヤ薬局代表取締役就任
2016（平成28）年6月 一般社団法人日本薬局協励会常任理事就任

有馬 純雄（一般社団法人 日本置き薬協会 代表理事）

1977（昭和52）年3月 青山学院大学経営学部卒業
1996（平成8）年11月 榑内外救急薬品 代表取締役社長
2008（平成20）年11月 一般社団法人日本置き薬協会 代表理事
2013（平成25）年4月 （公社）王子法人会 監事

岩月 進（公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事）

<学 歴> 昭和53年 名城大学薬学部 卒業
<職 歴> 昭和53年 塩野義製薬株式会社 勤務
昭和53年 株式会社佐藤薬局 勤務
昭和56年 ヨシケン岩月薬局 開設
平成11年 有限会社ファーマケア 設立

<薬剤師会の主な役職>

平成11年4月～平成11年3月 刈谷市薬剤師会 会長
平成11年4月～平成11年3月 社団法人愛知県薬剤師会 理事
平成11年4月～平成11年3月 社団法人日本薬剤師会 常務理事
平成11年4月～平成11年6月 社団法人愛知県薬剤師会 副会長
(平成25年4月1日一般社団法人に改組)

平成11年6月～ 一般社団法人愛知県薬剤師会 会長
令和2年6月～ 公益社団法人日本薬剤師会 常務理事

<主な公的・団体委員>

平成20年4月～平成20年3月 厚生労働省社会保障審議会医療保険部会 臨時委員
令和2年7月～ 厚生労働省 医療用から要指導・一般用への転用に関する評価検討会
議構成員
令和2年8月～ 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 薬事分科会 要指導・一般用医薬
品部会 臨時委員
令和2年8月～ 健康日本21推進全国連絡協議会 幹事
令和3年2月～ 厚生労働省 セルフメディケーションに関する有識者検討会 構成員

外部研修実施機関自主点検表

点検年月日	2021年4月7日
住所（団体等にあつては主たる事務所の所在地）	東京都港区虎ノ門1-15-10 名和ビル5階501号
氏名（団体等にあつては名称及び代表者の氏名）	一般社団法人日本医薬品登録販売者協会会長 樋口 俊一
点検者役職・氏名	一般社団法人日本医薬品登録販売者協会事務局長 横田 敏

	項目	適否
実施機関	研修の専門性・客観性・公正性を確保しているか	適
	登録販売者の職能に応じた相当の研修実績を有しているか	適
実施体制	(1) 客観性の確保（次の者の参画を求めているか）	
	①教育	適
	②学術関係者	適
	③消費者等	適
	(2) 実施要領を定めているか	
	①企画・運営	適
	②実施形式	適
	③内容	適
	④時間数	適
	⑤修了証の交付	適
	(3) 専門性の確保	
	研修の講師は、専門的な技術・知識を有しているか	適
	(4) 公正性の確保（次の情報を公表すること等により透明性を確保しているか）	
	研修の実施方法	適
実績等	適	
(5) 自治体への届出		
実施する研修の概要を届け出ているか	適	
研修の実施方法、実績等の情報も提供することが可能か	適	
形式	(1) 講義（集合研修）形式を基本としたカリキュラムを12時間以上組んであるか	適
	(2) 遠隔講座・通信講座を行う場合、講義（集合研修）の時間数を超えていないか	適
内容	必要な教材を用意し、研修の内容に①から⑦が含まれているか	
	①医薬品に共通する特性と基本的な知識	適
	②人体の働きと医薬品	適
	③主な一般用医薬品とその作用	適
	④薬事に関する法規と制度	適
	⑤一般用医薬品の適正使用と安全対策	適
	⑥リスク区分等の変更があった医薬品	適
	⑦その他登録販売者として求められる理念、倫理、関連法規等	適
実施頻度	毎年度、定期的かつ継続的に行われているか	適
研修修了	研修参加者の研修修了にあたり、①～④を実施しているか	
	①研修参加者の研修内容の修得の確認（例 テスト等）	適
	②研修参加者に修了証を交付	適
	③修了認定（適切に行うこと）	適
	④研修参加者の氏名、研修内容等を適切に記録・保存	適

令和3年度 登録販売者研修講師の氏名、所属、略歴一覧

氏名	所属	略歴
■専門講師		
川島 光太郎	一般社団法人 日本薬業 研修センター名誉理事	1965(昭和40)年3月 東京大学薬学部卒業 1970(昭和45)年3月 学位取得、東京大学薬学部で教務職員、助手として勤務 1978年(昭和53)年 帝京大学薬学部で助教授、教授として勤務 2006(平成18)年3月 同大学を定年退職 2007(平成19)年9月 一般社団法人 日本薬業研修センター理事長就任 1990(平成2)年-1992(平成4年) 神奈川県 医薬品等適正広告協議会 会長 2001(平成13年)神奈川県相模湖町「個人情報保護審議会」委員
中込 和哉	一般社団法人 日本薬業 研修センター理事長	1975(昭和50)年3月 東京大学薬学部卒業 1977(昭和52)年3月 東京大学大学院薬学研究科修士課程修了 1977(昭和52)年4月 通商産業省工業技術院微生物工業技術研究所に入所 1990(平成2)年4月 東京大学大学院より薬学博士授与 1991(平成3)年9月 米国ラフォヤ癌研究所研究員 1995(平成7)年4月 富山医科薬科大学薬学部助教授 2002(平成14)年4月 帝京大学薬学部教授 2018(平成30)年3月 帝京大学を定年退職 2018(平成30)年7月 一般社団法人日本薬業研修センター理事長就任
堀 美智子	(医薬情報研究所(株)エス・ アイ・シー)	1976(昭和51)年3月 名城大学薬学部卒業、翌年3月同薬学専攻科修了 1977(昭和52)年4月 名城大学薬学部医薬情報室勤務 1980(昭和55)年2月 帝京大学薬学部医薬情報室勤務 1996(平成8)年4月 名城大学薬学部非常勤講師 1998(平成10)年2月 医薬情報研究所(株)エス・アイ・シー設立に参加 2007(平成19)年9月 一般社団法人 日本薬業研修センター医薬研究所 所長就任
筑波 純	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1978(昭和53)年3月 明治薬科大学製薬学科卒業 1978(昭和53)年4月 埼玉県庁薬務課入職 保健所に行行政薬剤師として勤務[~2013(平成25)年3月] 2014(平成26)年1月 水野産業(株)入社 医療品卸、店舗販売管理者として勤務
吉岡 正則	京都国際生命医学研究所 長	1965(昭和40)年 昭和薬科大学卒業 1965-1970(昭和40-45)年 東京大学大学院薬学研究科修士、博士課程修了 1970(昭和45)年 東京大学助手、講師、助教授(薬学部) 1983(昭和58)年 摂南大学教授(薬学部) 2009(平成21)年退官
■特別講師		
内藤 隆	一般社団法人 日本医薬 品登録販売者協会副会長	1978(昭和53)年3月 龍谷大学経営学部経営学科卒業 1978(昭和53)年4月 (株)小田島 盛岡店病院課病院係配属 1984(昭和59)年9月 内藤薬店 開店 2009(平成21)年 岩手県医薬品登録販売者協会会長 2009(平成21)年 北日本医療福祉専門学校 薬業科医薬品管理学非常勤講師
■認定講師		

荒木 文明	(株)マツモトキヨシ	2004(平成16)年3月 北海道薬科大学卒業 2004(平成16)年4月 (株)カワチ薬品入社[~2015(平成27)年10月] 2016(平成28)年2月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[管理本部 人事部 人材事業推進課(HD)]
安藤 健志	(株)マツモトキヨシ	2008(平成20)年3月 帝京大学薬学部卒業 2008(平成20)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[ドラッグストア野田宮崎店]
飯島 嘉尋	(株)マツモトキヨシ	2008(平成20)年3月 日本大学薬学部卒業 2008(平成20)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[東大宮東口店]
池内 卓	(株)コスモス薬品	2002(平成14)年3月 帯広畜産大学畜産学部卒業 2002(平成14)年4月 四国乳業(株)入社(~平成20年10月) 2016(平成28)年3月 松山大学薬学部卒業 2016(平成28)年4月 (株)コスモス薬品入社、現在に至る
市原 綾乃	(株)マツモトキヨシ	2015(平成27)年3月 崇城大学薬学部薬学科卒業 2015(平成27)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[銀座みゆきAve店]
上野 敦子	(株)マツモトキヨシ	1997(平成9)年3月 京都薬科大学卒業 1997(平成9)年4月 きっこう会 多根総合病院入社 2004(平成16)年4月 仁風会 牧野病院入社 2009(平成21)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[心斎橋中央店]
大石 義孝	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1965年 京都薬科大学 薬学部 武庫川女子大学 薬学部教授
大熊 明	(株)マツモトキヨシ	1985(昭和60)年3月 日本大学理工学部薬学科卒業 1985(昭和60)年4月 エーザイ(株)入社 1986(昭和61)年5月 エスエス製薬(株)入社 2015(平成27)年7月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[札幌狸小路店]
岡崎 亮	(株)コスモス薬品	2009(平成21)年3月 広島国際大学薬学部薬学科卒業 2009(平成21)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
岡田 めぐみ	(株)マツモトキヨシ	2007(平成19)年3月 神戸薬科大学薬学部卒業 2009(平成21)年3月 神戸薬科大学大学院修士課程修了 2009(平成21)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[岩本町駅前店]
荻原 淳	(株)マツモトキヨシ	2013(平成25)年3月 東京薬科大学卒業 2013(平成25)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[マーケットプレイス川越的場店]
奥 雅仁	(株)マツモトキヨシ	2006(平成18)年3月 静岡県立大学薬学部薬学科卒業 2008(平成20)年3月 京都大学大学院薬学研究科修士課程修了 2009(平成21)年4月 イオンリテール(株)入社[~2014(平成26)年10月] 2014(平成26)年11月 (株)マツモトキヨシ入社
小口 政斗	(株)マツモトキヨシ	2012(平成24)年3月 明治薬科大学卒業 2012(平成24)年4月 大正製薬(株)入社 2013(平成25)年11月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[柏東口駅前店]
鬼本 茜	(株)マツモトキヨシ	2001(平成13)年3月 京都薬科大学薬学部生物薬学科卒業 2003(平成15)年3月 京都薬科大学大学院薬学研究科臨床薬学専攻修士課程修了 2003(平成15)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[あべのキューズタウン店]
金子 大亮	(株)マツモトキヨシ	1991(平成3)年3月 新潟薬科大学卒業 1991(平成3)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[管理本部 人事部 人材事業推進課(HD)]
木本 賢一	(株)マツモトキヨシ九州販売	2006(平成18)年3月 熊本大学大学院生命科学研究部卒業 2007(平成19)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る

日下部 真彦	(株)マツモトキヨシ	2005(平成17)年3月 城西大学薬学部卒業 2007(平成19)年3月 城西大学大学院薬学研究科薬学専攻修士課程修了 2011(平成23)年11月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る〔八王子城山手店〕
黒田裕美子	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1965(昭和40)年12月15日生 1989(平成元)年3月 東京理科大学薬学部薬学科卒業 1989(平成元)年4月 味の素(株)中央研究所入社〔~2003(平成15)年4月〕 2003(平成15)年7月 クリエイトS.D.(株) 薬剤師として勤務〔~2008(平成20)年8月〕
近藤 弘一	(株)マツモトキヨシ	2000(平成12)年3月 名古屋市立大学大学院薬学博士前期課程修了 2003(平成15)年9月 (株)コスモス薬局入社 2014(平成26)年10月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る〔管理本部 人事部 人材事業推進課(HD)〕
佐川 貴昭	(株)コスモス薬品	2002(平成14)年3月 徳島大学薬学部薬学科卒業 2004(平成16)年3月 徳島大学大学院薬学研究科修士課程卒業 2004(平成16)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
塩谷 英之	(株)マツモトキヨシ	1986(昭和61)年 3月 昭和薬科大学卒業 1987(昭和61)年 4月 日本シェーリング(株)入社 1989(平成1)年 6月 アステラス製薬(株)入社 2015(平成27)年 1月 クインタイルズ(株)入社 2016(平成28)年11月 コクミン(株)入社 2018(平成30)年 2月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る〔新宿三丁目Part2店〕
篠原 徹	(株)マツモトキヨシ	2015(平成27)年3月 就実大学薬学部薬学科卒業 2015(平成27)年4月 川崎医科大学付属病院入職 2016(平成28)年9月 (株)マツモトキヨシ中四国販売入社 現在に至る〔くすりのラブ岡南店〕
新谷 良介	(株)マツモトキヨシ九州販売	2002(平成14)年3月 九州大学薬学部卒業 2002(平成14)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る
神道 孝志	(株)マツモトキヨシ	2014(平成26)年3月 立命館大学薬学部薬学科卒業 2014(平成26)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る〔ドラッグストア八尾店〕
田中 一弘	(株)マツモトキヨシ	2001(平成13)年3月 北里大学薬学部卒業 2001(平成13)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る〔瑞江駅前店〕
田中 俊充	(株)マツモトキヨシ	2006(平成18)年3月 長崎大学薬学部薬科学科卒業 2008(平成20)年3月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程前期終了 2008(平成20)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る〔成田日吉台店〕
帖佐 祐樹	(株)マツモトキヨシ九州販売	2007(平成19)年3月 明治薬科大学薬学部衛生薬学科卒業 2007(平成19)年4月 万有製薬(株)入社 2010(平成22)年5月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る
磨 清香	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	2002(平成14)年3月 広島大学医学部総合薬学科卒業 2004(平成16)年3月 広島大学大学院医歯薬学総合研究科薬学専攻博士課程前期修了 2004(平成16)年4月 (株)岩崎宏健堂入社〔~2013(平成25)年8月〕 2014(平成26)年1月 登録販売者研修講師・販売に携わり現在に至る
豊島 雅樹	(株)マツモトキヨシ九州販売	2013(平成25)年3月 松山大学薬学部医療薬学科卒業 2013(平成25)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る
豊田 正孝	(株)マツモトキヨシ	1977(昭和52)年3月 北里大学薬学部卒業 1977(昭和52)年4月 日本赤十字埼玉県赤十字血液センター入社 1991(平成3)年3月 東武ドラッグ入社 1994(平成6)年7月 (株)ぱぱす入社
中井 麻衣子	(株)マツモトキヨシ中四国 販売	1995(平成7)年3月 徳島大学薬学部卒業 1996(平成8)年7月 (株)ラブドラッグス入社 現在に至る〔(株)マツモトキヨシ中四国販売 店舗運営部〕

西嶋 宏範	(株)マツモトキヨシ	2012(平成24)年3月 松山大学薬学部医療薬学科卒業 2012(平成24)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[ミュ-阪急桂店]
橋本 彩加	(株)マツモトキヨシ	2015(平成27)年3月 同支社女子大学薬学部医療薬学科卒業 2015(平成27)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[京阪守口市駅店]
藤田 寛志	(株)マツモトキヨシ	2007(平成19)年3月 昭和薬科大学薬学部卒業 2007(平成19)年5月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[ドラッグストア安城横山店]
堀内 耕介	(株)マツモトキヨシ	1996(平成8年)3月 東京薬科大学 薬学部 衛生薬学科卒業 2005(平成17年)4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[ドラッグストア江戸崎店]
堀川 竜弥	(株)マツモトキヨシ	2013(平成25)年3月 京都薬科大学薬学部薬学科卒業 2013(平成25)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[管理本部 人事部 人材事業推進課(HD)]
松田 智美	(株)マツモトキヨシ九州販売	2001(平成13)年9月 第一薬科大学薬学部製薬学科卒業 2002(平成14)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る
松田 佳和	日本薬科大学 教授	1982(昭和57)年3月 北里大学薬学部薬学科卒業 1984(昭和59)年 北里大学大学院薬学研究科修士課程終了(薬学修士) 2001(平成13)年 北海道大学医学部附属病院薬剤部 2011(平成23)年 日本薬科大学 教授
矢田 久人	(株)コスモス薬品	2005(平成17)年3月 熊本大学薬学部薬科学科卒業 2007(平成19)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
柳林 聡史	(株)マツモトキヨシ	2009(平成21)年3月 明治薬科大学薬学部卒業 2009(平成21)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[柏店]
山内 伸一	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1974(昭和49)年3月 徳島大学薬学部製薬化学科卒業 1974(昭和49)年4月 住友化学工業(株)医薬事業部入社 1982(昭和57)年9月 グラクソ・スミスクライン(株)学術研修部入社 2005(平成17)年4月 テンプスタッフ(株)バイオ・メディカル事業部入社
龍園 一誠	(株)コスモス薬品	2008(平成20)年3月 神戸学院大学薬学部卒業 2008(平成20)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
六丸 友理	(株)マツモトキヨシ	2008(平成20)年3月 北里大学薬学部薬学科卒業 2010(平成22)年3月 北里大学大学院薬学研究科修了 2010(平成22)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[藤沢長後店]
脇川 貴宏	(株)マツモトキヨシ	2000(平成12)年3月 富山医科薬科大学(現 富山大学)薬学部卒業 2000(平成12)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[川口東口店]
渡邊 大輔	(株)マツモトキヨシ	2005(平成17)年3月 東京理科大学卒業 2007(平成19)年3月 東京理科大学大学院卒業 2007(平成19)年4月 (株)マツモトキヨシ入社 現在に至る[三河島駅前店]
本間 篤	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1999(平成11)年3月 東京理科大学薬学部薬学科卒業 2001(平成13)年3月 筑波大学大学院バイオシステム研究科修了 2001(平成13)年4月 春明会 みくに病院入職 2002(平成14)年4月 (株)ダイエー大宮店薬局入職 2004(平成16)年3月 立教大学大学院21世紀社会デザイン科修了 2006(平成17)年4月 横浜ビューティーアート専門学校講師 2007(平成18)年4月 横浜医療秘書歯科助手専門学校講師 2008(平成19)年4月 東京未来大学非常勤講師 2013(平成25)年4月 東京医療秘書福祉専門学校講師

田村 裕子	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1991(平成3)年3月 共立薬科大学薬学部卒業 1991(平成3)年4月 加納岩総合病院薬剤部入社 1995(平成7)年7月 古屋総合薬局入社 2006(平成18)年7月 (株)福壽入社 2007(平成19)年7月 たわら薬局入社 2013(平成25)年3月 なの花東日本入社
佐藤 勝彦	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1977(昭和52)年3月 東北薬科大学卒業 1977(昭和52)年4月 岩手県立久慈病院勤務 1981(昭和56)年4月 岩手県立釜石病院勤務 1985(昭和60)年4月 岩手県立大船渡病院勤務 1992(平成4)年4月 同病院主任薬剤師 1997(平成9)年4月 岩手県立中央病院勤務 2000(平成12)年4月 岩手県立福岡病院 薬剤科次長 2004(平成16)年4月 岩手県立住田病院 薬剤科長 2007(平成19)年4月 岩手県立北上病院 薬剤科長 2009(平成21)年4月 岩手県立中部病院 薬剤科長 2010(平成22)年4月 岩手県立中央病院 薬剤部長 2014(平成26)年3月 同病院退職
寺田 譲治	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	2000(平成12)年3月 摂南大学薬学部衛生薬学科卒業 2000(平成12)年4月 イオン(株)入社 2005(平成17)年7月 メディック(株)入社 2006(平成18)年9月 (株)示野薬局入社
百瀬 晴彦	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1981(昭和56)年3月 昭和大学薬学部薬学科卒業 1981(昭和56)年4月 埼玉医科大学付属病院薬剤部入局 1987(昭和62)年4月 常盤台病院 薬局長 1990(平成2)年7月 山口県厚生連長門総合病院薬剤科入局 1995(平成7)年10月 薬樹(株)入社 薬局薬樹小田原店長 2006(平成18)年7月 あおば薬局富丘店長 2009(平成21)年7月 健ナビ薬局鶴見店長 2010(平成22)年7月 ふたば薬局北里店長 2011(平成23)年7月 薬局よこうち店長
浅井 香奈枝	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	2000(平成12)年3月 帝京大学薬学部薬学科卒業 2005(平成17)年3月 明治薬科大学大学院薬学研究科卒業 2005(平成17)年4月 医療法人済安堂西葛西井上眼科病院入職 2013(平成25)年4月 星薬科大学実務実習非常勤講師
小徳 めぐみ	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1986(昭和61)年3月 帝京大学薬学部生物薬学科卒業 1986(昭和61)年4月 同愛記念病院アレルギー呼吸器研究室常勤 1990(平成2)年4月 医療法人ナザレ園ナザレ園クリニック入社 1992(平成4)年4月 (有)トラスト アゼリア調剤薬局入社 1998(平成5)年3月 医療法人博仁会志村大宮病院入社 1999(平成6)年8月 こうのす薬局開局
三瓶 勝徳	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1982(昭和57)年3月 東日本学園大学薬学部衛生薬学科卒業 1982(昭和57)年4月 独協医科大学病院薬剤部研修生 1982(昭和57)年6月 (株)カワチ薬品入社 2006(平成18)年7月 東京医療専門学校薬業科非常勤講師 2006(平成18)年11月 エグゼクティブ・コーチ「Light Keepers」主宰
久保田純平	(株)マツモトキヨシ	2013(平成25)年3月 日本大学薬学部卒業 2013(平成25)年4月 (株)マツモトキヨシ入社
畠中 友紀	(株)マツモトキヨシ	2004(平成16)年3月 第一薬科大学卒業 2004(平成16)年4月 (株)マツモトキヨシ入社
宮本 俊男	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1972(昭和47)年4月 茨城県庁入庁 2010(平成2)年4月 寺島薬局(株)入社 2013(平成25)年3月 ウエルシア関東(株)調剤管理部薬事担当部長 2013(平成25)年11月 同社薬事監査室室長 2014(平成26)年9月 ウエルシア薬局(株)薬事監査室長兼調剤在宅管理部長 2014(平成26)年11月 ウエルシアホールディングス(株)監査役

野本 実	一般社団法人 日本薬業 研修センター 講師	1980(昭和55)年3月 東京薬科大学卒業 1980(昭和55)年4月 埼玉県庁入庁(衛生部薬務課) 2017(平成29)年3月 埼玉県庁退職(保健医療部疾病対策課) 2019(平成29)年4月 埼玉県庁再任用(熊谷保険所)
梅木 陽菜	(株)コスモス薬品	2016(平成28)年3月 大原医療福祉製薬専門学校小倉校卒業 2016(平成28)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
梶 香織	(株)コスモス薬品	2018(平成30)年3月 鹿児島女子短期大学教養学科卒業 2018(平成30)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
清水 香奈美	(株)コスモス薬品	2018(平成30)年3月 宮崎大学教育文化学部人間社会過程社会システムコース卒業 2018(平成30)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
中川 美帆	(株)コスモス薬品	2013(平成25)年3月 福岡県立宇美商業高等学校卒業 2013(平成25)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
野上 春佳	(株)コスモス薬品	2017(平成29)年3月 福岡女学院大学人間関係学部心理学科卒業 2017(平成29)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
濱田 莉紗	(株)コスモス薬品	2014(平成26)年3月 県立広島大学生命環境学部生命科学科卒業 2014(平成26)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
細川 実希	(株)コスモス薬品	2013(平成25)年3月 高知大学農学部農学科卒業 2013(平成25)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る
森下 美和子	(株)コスモス薬品	2017(平成29)年3月 広島文教女子大学人間科学部心理学科卒業 2017(平成29)年4月 (株)コスモス薬品入社 現在に至る